

## チャのツマグロアオカスミカメ

### 1 形態と生態

- (1) ツマグロアオカスミカメ(旧名 ウスミドリメクラガメ)の成虫は体長が約4～6mmで、うす緑色をした楕円形の小さいカメムシです。年に4～5回発生し、卵で越冬します。
- (2) 越冬卵は入間地域では4月中下旬、秩父地域では4月下旬の一番茶の萌芽期にふ化し、ふ化した越冬世代幼虫は萌芽まもない一番茶の新芽を加害します。その後、成虫は茶芽を加害しながら、茶樹に産卵し、ふ化した第一世代の幼虫が二番茶芽を加害し、成虫になります。
- (3) 7月下旬～8月は、茶園に近いアレチノギク、ヨモギ、ギシギシなどの雑草に移動し、そこで繁殖しますが、一部は茶園内にとどまり、三番茶芽を加害します。
- (4) 9月～11月にかけて成虫が再び雑草から茶園に移動し、小枝の切口に産卵します。

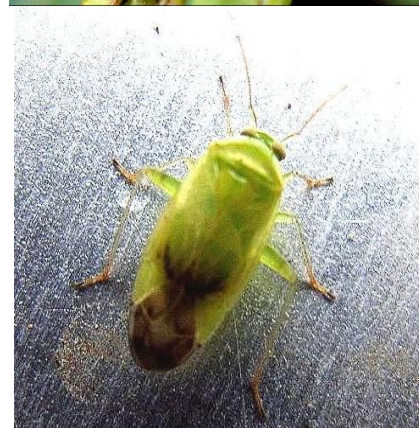


写真1 幼虫(上)と成虫(下)

### 2 被害の様子

- (1) 被害は、幼虫、成虫ともに茶芽の芯や若葉を吸汁し、赤褐色の細かい斑点が生じます。
- (2) この芽が生長すると小さな穴がたくさんあいた葉や変形した葉になってしまいます。加害が激しいと茶芽が黒くなり、生育が停止します。
- (3) とくに一番茶芽の被害は越冬世代の小さな幼虫による被害であり、気づかないうちに被害が拡大し、手遅れになることが少なくありません。
- (4) 萌芽期から一番茶芽に対する被害が激しい場合、摘採面に坪状に芽の伸びない場所が散在するようになり、収量が著しく低下するこがとあります(ナガチャコガネ幼虫による一番茶芽の生育が止まる被害に類似するので注意が必要です)。
- (5) 穴があいた葉や変形した葉を製茶すると、碎けてしまい外観が損なわれます。



写真2 一番茶芽の被害



写真3 被害芽が展開したときの葉

### 3 発生について

- (1) 成虫の発生活消長と一番茶及び二番茶の加害時期の関係は下図のようになります。
- (2) 主に一番茶芽は越冬世代幼虫と成虫、二番茶は第一世代幼虫と成虫が加害しています。

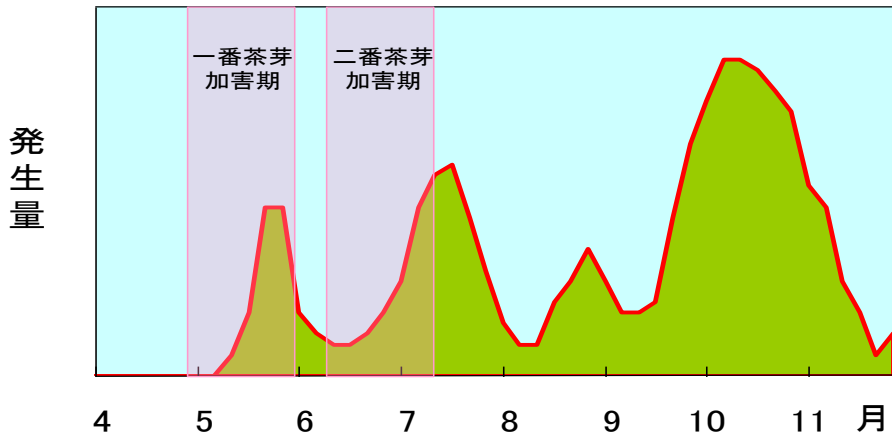


図1 埼玉県における成虫の発生活消長(模式図)

### 4 防除時期と防除方法

- (1) 7月下旬～8月までは茶園周辺の雑草に移動して繁殖するため周辺雑草(アレチノギク、ヨモギ、ギンギン等)の除去は密度抑制に効果があります(耕種的防除)。
- (2) 萌芽期の発生に注意し、新芽に赤褐色の細かい斑点が生じる被害が確認されたら、早めに防除しましょう。
- (3) 一・二番茶期に薬剤防除する際は、摘採前使用日数に十分注意して、萌芽期から2葉開葉期に実施しましょう。また、クモ類などの土着天敵の働きを妨げないように、合成ピレスロイド剤の使用はなるべく避けましょう。
- (4) 常発園や多発した園では、卵を生むために成虫が茶園に来る10月～11月に防除を行うと、越冬卵密度が低下し、翌年一番茶芽の被害軽減に効果があります。

#### 薬剤防除を実施する場合は、

- 最終有効年月内の農薬を使用し、ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を必ず確認してください。
- 適切な薬剤を選択し、病害虫が抵抗性を獲得しないように、同一系統薬剤の連続使用を避けてください。
- 農薬を散布する際は飛散しないよう対策を講じてください。

■ 発行 平成28年2月 埼玉県農産物安全課、一般社団法人埼玉県植物防疫協会

■ 問合せ先(原稿執筆)

埼玉県茶業研究所栽培担当 TEL04-2936-1351

埼玉県病害虫防除所 TEL048-539-0661

